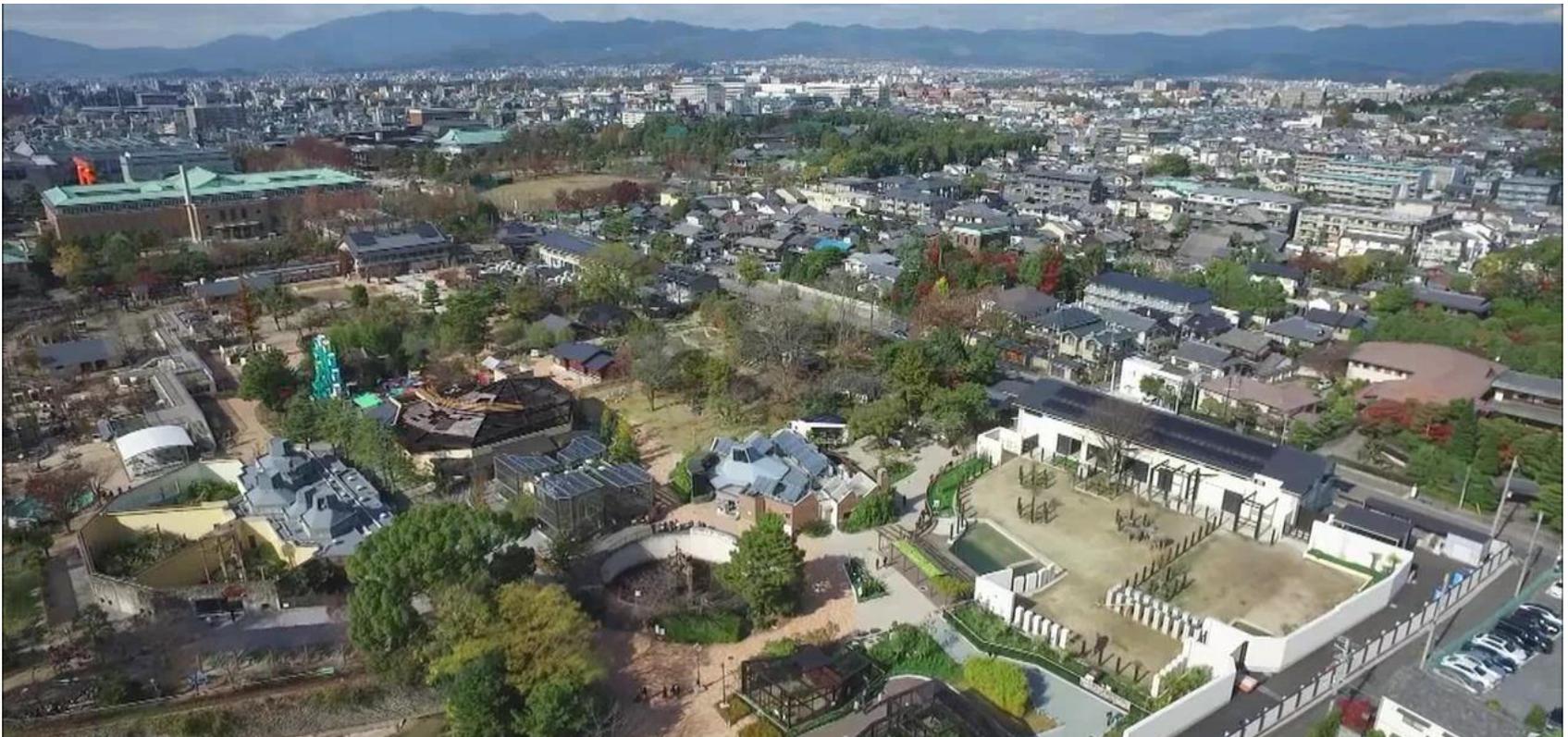


新たな「京都市動物園構想」の策定について



平成30年8月14日 文化市民局動物園

現構想の総括 ①

共汗でつくる新「京都市動物園構想」 (平成21年11月策定, 現構想)

市民ニーズに応えた、抜本的かつ総合的な京都市動物園の施設整備を進めるため、平成21年3月に設置した「動物園大好き市民会議」で議論を重ね(専門委員会及び市民委員ワークショップを各5回開催)、「共汗でつくる新「京都市動物園構想」」を策定した。

<現構想の構成>

- (1) 京都市動物園の現状と課題
- (2) 「近くて楽しい動物園」～新たな都市型動物園を目指して
- (3) 魅力ある展示に向けた施設整備
- (4) ゾーンテーマに応じた施設整備
- (5) 活性化に向けた取組

現構想の総括 ②

現構想に基づく施設・エリア整備(整備費用:当初想定約30億円,最終約47億円)

施設・エリア	オープン時期
おとぎの国	平成23年4月16日
もうじゅうワールド・バク舎	平成24年4月28日
アフリカの草原	平成25年4月6日
ひかり・みず・みどりの熱帯動物館	平成25年4月27日
東エントランス・ツシマヤマネコ繁殖棟	平成25年7月6日
ゴリラのおうち～樹林のすみか～	平成26年4月27日
京都の森	平成27年9月5日
ゾウの森	平成27年7月4日
学習・利便施設(正面エントランス)	平成27年7月11日

※ 平成26年11月17日にラオスから小ゾウ4頭を導入

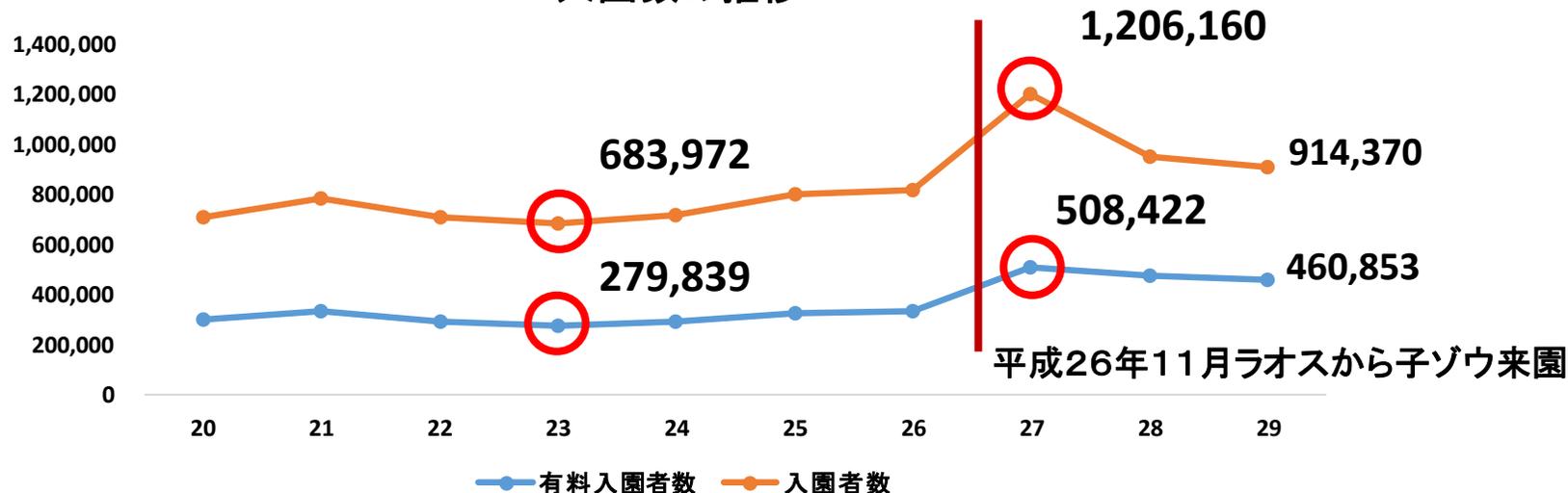
※ 平成27年11月8日にグランドオープン

現構想の総括 ③

現構想に基づく整備の効果－1

- 入園者数 最初のエリアの整備が完了した平成23年度以降右肩上がり
リニューアルオープンした平成27年度は前年度比5割増
- 来園者動向 年齢層のピークは整備前後ともに未就学児と30代の2つが顕著であるが一方で整備後は40代以上の割合が増加

入園数の推移

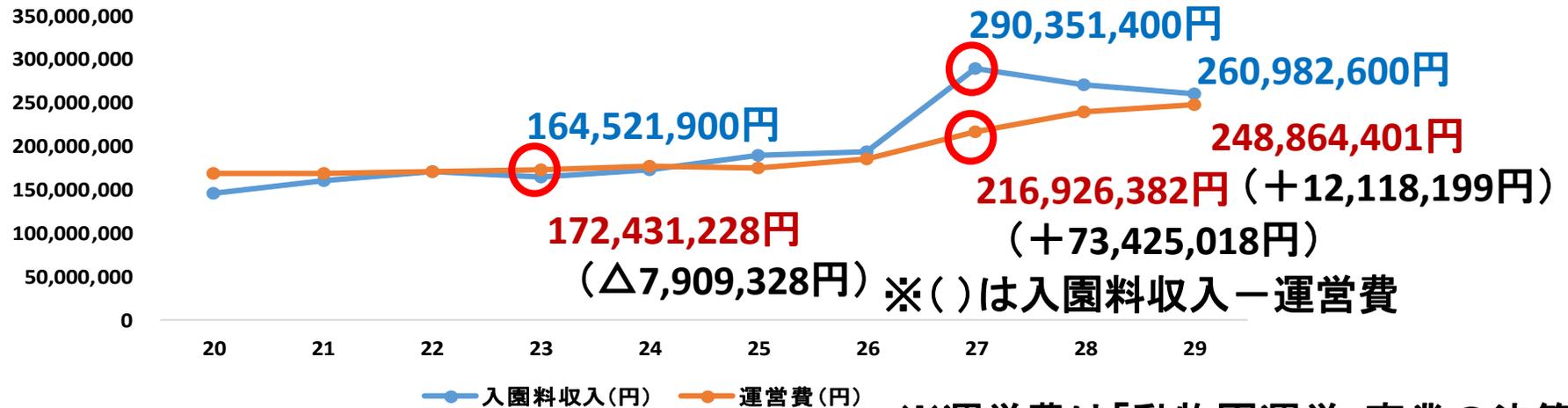


現構想の総括 ④

現構想に基づく整備の効果ー2

- 入園料収入 最初のエリアの整備が完了した平成23年度以降右肩上がり
リニューアルオープンした平成27年度は前年度比5割増

入園料収入及び運営費の推移



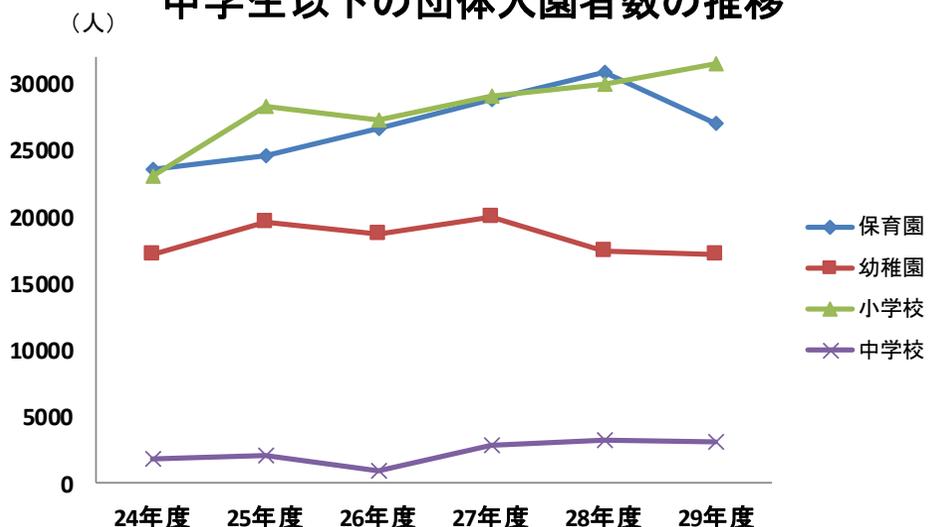
※運営費は「動物園運営」事業の決算額

現構想の総括 ⑤

現構想に基づく整備の効果－3

- 教育効果 中学生以下の団体入園者数は、平成24年度に対して平成27年度は4つの区分全てにおいて15%以上増
教育機関や各種団体向けの講演回数は、平成24年度以降増

中学生以下の団体入園者数の推移



講演実績(回数)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
71	119	131	184	196	188

現構想の総括 ⑥

現構想に基づく整備の効果－4

- アンケートに基づく来園者の満足度
 - 動物の見やすさ 93%
 - 動物に関する説明 81%
 - ふれあいやイベントの充実 73%
- ⇒整備について高い評価をいただいている。

京都市動物園の現状 ①

種の保存の取組

- ゾウの繁殖プロジェクト
- ニシゴリラ, チンパンジー, グレビーシマウマ, ヤブイヌの繁殖
- ツシマヤマネコ保護増殖事業
- 守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト

動物の福祉

- 環境エンリッチメントの実践
- 平成18年と平成21年にNPO法人市民Zooネットワークから「エンリッチメント大賞」を受賞

生き物・学び・研究センター

- 平成20年京都大学と連携協定締結
- 平成25年センター設置
- 平成29年パワーアップ(増員)
- 平成30年1月「学術研究機関」として文部科学省から指定他

教育普及事業

- 講演の実施
- 実習生及び体験実習の受入れ
- サマースクールの実施
- 「きょうと☆いのちかがやく博物館4園館包括交流連携事業」の実施
- 絵画コンクールの実施他

WAZAに加入

- 国際的に認められた動物園であることをPRL, 希少動物の導入や持続可能な繁殖, 教育・研究の取組を更に進めるため平成30年5月に加入

京都市動物園の現状 ②

イベントの実施

- 野生動物学のすすめ
- やまねこ博覧会
- 動物のお宅拝見
- 餌やり体験
- 飼育員のお話
- 獣医が行く！
- サルのお勉強の話他

エコ・Zooの取組

- BEMS導入
- 太陽光パネル設置
- 太陽熱パネル導入
- コンポスター導入
- 屋上緑化
- ドライミスト導入
- LED照明, 外灯の導入他

安全対策

- 平成20年6月に発生した飼育員死亡事故を教訓に、安全管理担当者を設け、入園者と職員の安全対策を進めている。

ボランティア

- 「おとぎの国」を拠点として活動する「京都市動物園ボランティアーズ」が昭和56年に発足し、現在に至るまで活動を継続している。

野生鳥獣救護事業

- 平成元年から京都府と協力して京都市域の傷ついた野生の鳥類と哺乳類の救護活動を行っている。
- 平成25年7月から新施設で運用開始
- 平成25年から有害鳥獣が除外され件数は100件未満に減少

京都市動物園が取り組むべき課題

動物福祉に配慮したソフト及びハードの取組み(環境エンリッチメント)

- 今日的な動物福祉の潮流に配慮し、飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を整える必要がある。

生物多様性、地球環境保全の普及啓発の拠点

- 多様化する環境・教育ニーズに対応するために環境教育を充実する必要がある。

多言語化

- インバウンドの訪日観光旅行者に対応した園内説明板、パンフレット及び館内放送を充実する必要がある。

中期的な動物種の飼育展示計画(コレクションプラン)の検討

- 限られたスペースの中で、生物多様性・種の保存について来園者に理解いただける持続的な展示計画の検討。

サルワールドの機能充実

- サル島(昭和12年建設)及び類人猿舎(昭和44年建設)の築年数が古く、現代の潮流である動物福祉や教育普及・研究の観点を取り入れた機能が十分に発揮されていない。

入園者数の減少

- 平成27年のグランドオープンに伴い入園者が増えたが、その後、入園者数が減少している。

新たな「京都市動物園構想」の 5つの柱

- 1 生物多様性の保全に力強く貢献し日本をリードする動物園
- 2 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園
- 3 比較認知科学や動物福祉に関する研究を推進する世界水準の動物園
- 4 「近くて楽しい動物園」の更なる進化
- 5 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園(誘客対策)